

The Council of College English Teachers

全国高等専門学校英語教育学会

第36回研究大会プログラム

主催： 全国高等専門学校英語教育学会（COCET）
 期日： 平成24年9月7日（金）～9日（日）
 会場： 国立オリンピック記念青少年総合センター（センター棟）
 〒151-0052 東京都渋谷区代々木神園町3番1号
 Phone：03-3469-2525
 参加費：COCET 会員は無料（非会員 2,000 円）

1. 日程

◎ 第1日 9月7日（金） 15:00～17:00 理事会（センター棟 406号室）

◎ 第2日 9月8日（土）

10:00 ～ 12:00	12:00 ～	13:00 ～ 13:35	13:40 ～ 15:00	15:00 ～ 15:50	15:50 ～ 17:30	18:00 ～ 20:00			
情報 交 換 会	受 付	総 会	特 別 講 演	写 真 撮 影	休 憩	研究発表 I	懇 親 会		
						[1]		[4]	[7]
						[2]		[5]	[8]
						[3]		[6]	[9]
賛助会員展示(404号室)									

◎ 第3日 9月9日（日）

10:00 ～ 11:40	11:40 ～ 13:00	13:00 ～ 14:40	14:40 ～ 15:00	15:30 ～ 17:00		
研究発表 II		昼 休 み	フ ォ ー ラ ム	閉 会 行 事	C O C E T サ ロ ン	
[10]	[13]					[16]
[11]	[14]					[17]
[12]	[15]	[18]	賛助会員展示(404号室)			

大会事務局：全国高等専門学校英語教育学会(COCET)事務局
 〒981-1239 宮城県名取市愛島塩手野田山48
 仙台高専名取キャンパス 武田 淳 研究室内
 Phone/Fax : 022-381-0281
 e-mail : office@cocet.org
 COCET-HP : http://cocet.org/

2. 情報交換会 9月8日(土) 10:00~12:00 (センター棟401号室)

司会：亀山 太一 (岐阜)、森 和憲 (香川・詫間C)

テーマ：「授業・研究のための Tips その2」

「研究」として発表するほどではないにしても、日頃の授業や研究の中で思いついたアイデアや、授業で活用している小道具大道具の数々、知っておくと役に立つ情報、これはぜひ広めたいテクニック、そんな情報をお持ちの先生方は多いことでしょう。昨年度の京都大会で好評を博したこの Tips 交換会を、今年も実施します。「こんなものがあるよ」という情報提供も、「これ、どうしたらいいでしょう?」といった問題提起も、どちらも大歓迎です。コセットならではの、和気藹々とした中にも有意義な情報交換会にしましょう。

3. 総会 9月8日(土) 13:00~13:35 (センター棟401号室)

- ・平成23年度の活動報告および24年度活動計画、
- ・平成23年度決算報告および24年度予算、
- ・新年度人事、その他

4. 特別講演 9月8日(土) 13:40~15:00 (センター棟401号室)

講師：大津 幸一先生 石巻専修大学教授・同大学国際交流センター長

演題：「英語と私 — My English Journey」

講師略歴：1947年、宮城県石巻市生まれ、東京外国語大学英米語学科卒業。

私立桐朋女子中学・高等学校、宮城県白石女子高等学校、同石巻女子高等学校などを経て現職。

英語学習を日本語も含めた「ことば学」と位置づけ、様々な実践を試みている。

2011.3.11の東日本大震災の際は、被災地石巻に留まりながら情報を発信し続け、その活動はワシントンポスト紙に掲載された。<http://projects.washingtonpost.com/staff/articles/chico+harlan/>

「英語で書いてみよう」(1997岩波ジュニア新書)

「英語の疑問 こう考えてみよう」(2004岩波ジュニア新書)

「話してみよう 旅行の英語」(2008岩波ジュニア新書) 岩波ジュニア新書部門で3週連続第1位を記録。

「カタカナ語 目からうろこ」(2010河北新報出版センター)

「グローバル英和辞典(三省堂)」巻末「英文法小辞典」

「源氏の由可里」の英翻訳 'Prince Genji'

ラジオ石巻「大津幸一のカタカナ語塾」(2011年10月～、第2水・木曜)

5. 賛助会員展示 9月8日(土)・9日(日) センター棟404号室

今年度のコセット研究大会は、次の賛助会員の皆様のご支援を得て開催されます。

大会期間中、賛助会員各社の教材や書籍等の展示を行っています。休憩時間等を利用して、ぜひご覧いただきますようお願いいたします。

グローバル・コミュニケーション&テストング(GC&T)

株式会社 南雲堂

チエル株式会社

株式会社 成美堂

英語運用能力評価協会(ELPA)

株式会社 ピアソン桐原

カシオ計算機株式会社

株式会社 アルク教育社

一般財団法人 国際ビジネスコミュニケーション協会

文化学園アカデミックアーカイブセンター

HOYAサービス株式会社

6. 研究発表 I 9月8日(土)

	15:50 - 16:20	16:25 - 16:55	17:00 - 17:30
401 号室	[1]森和憲(香川・詫間C) iBooks Author を利用したデジタル教材作成とその問題点 司会: 亀山太一(岐阜)	[4]小寺光雄・吉田三郎(福井) ムードル Moodle を利用した英語の e ラーニングとその学習効果について 司会: 亀山太一(岐阜)	[7]Richard Sampson(群馬) Where I' m going, where I' ve been 司会: 瀬川直美(木更津)
414 号室	[2]中川右也(米子) 英語を苦手とする学生への TOEIC ストラテジー ー少人数勉強会のささやかな実践報告ー 司会: 青山晶子(富山・本郷C)	[5]奥崎真理子(函館) Influences of Japanese Students' Shallow and Rapid Respiratory Rhythms on Their Listening and Reading Comprehension in English 司会: 青山晶子(富山・本郷C)	[8]中川右也(米子)・土屋知洋(防衛大学校) 認知言語学的アプローチによる句動詞指導の効果と留意点 司会: 竹田恒美(東京)
415 号室	[3]阿部恵(八戸) 海外研究が及ぼす効果について ー国際教育の視点からー 司会: 武田淳(仙台・名取C)	[6]天内和人・国重徹・高橋愛(徳山) 徳山高専専攻科における英語教育改革 ー「英語力向上タスクフォース II」の取り組みと効果ー 司会: 武田淳(仙台・名取C)	[9]樫村真由(東京) 海外インターンシップとその事前研修の効果 司会: 中井大造(米子)

研究発表 I 要旨

[1]

本発表では、2011年に米 Apple 社が発表した電子ブック作成用ソフトウェア iBooks Author を利用した英語視聴覚教材作成について発表する。本ソフトウェアを利用することで、既存の Web 教材とは違う方式で教材を提供することが可能となった。しかし、その一方で、制作の過程で様々な制約があることも分かった。本発表では iBooks Author を用いた教材作成のメリットとデメリットについて考察する。

[2]

社会のニーズによって、教育現場においても TOEIC 受験は必要とされている。近年では、編入学試験においても、個別試験の代わりに TOEIC スコアの提出を求める大学も増えつつある。そのような状況の中で、今年、希望者のみを対象にし、少人数の TOEIC 対策勉強会を行なった。本校は英語を苦手とする学生が多いが、短期間でどのような指導方法を行えば効果が上がるのかを検証した。語学に関する資格試験を受けることに慣れていない学生を指導し、指導前のスコアと指導後のスコアとでは、どのような変化があったのか、また、具体的にどのような指導方法を行なったのかを発表当日は示したい。

[3]

本研究では、本校で 2007 年度から実施した短期海外研修に参加した学生を対象に、短期海外研修の影響を調査した結果を発表する。英語力においては、研修参加者全員の英語が必ずしも上達し続けているとはいえないが、グローバル人材の育成を目指した国際教育という視点から、短期海外研修はメリットがあるようだ。短期海外研修参加者の英語力、英語学習モチベーション、他国や自国に対する意識などの変化を調査した結果を発表する。

[4]

Moodle はオープンソースの e ラーニング用システムで、国内外の多くの教育機関等で利用されている。本校では平成 20 年度頃に概ね準備が整い、これまでいくつかの教科で運用している。英語科では一般科目英語の授業で使用する教材や、TOEIC 練習用の教材を自主作成して活用している。本発表では、Moodle を利用して教材を作成する方法とその実例を紹介し、さらに Moodle 利用の授業に対する評価として実施したアンケートを基に、e ラーニング学習の効果について分析を行う。

[5]

This paper describes the preliminary experiments considering the hypothesis that Japanese students' shallow and rapid respiratory rhythms, which are caused by their hunchback positions, interfere with their reading and listening comprehension of English, which is presented on the premise of deep and prolonged respiratory rhythms.

In this paper, appropriate research procedures and respiratory examinations were designed in order to investigate the hypothesis with respect to students' reading comprehension after four different kinds of pilot experiments and respiratory examinations were conducted on twelve Japanese students.

Keywords: respiratory rhythms, Japanese, shallow and rapid, English, deep and prolonged, reading comprehension

[6]

平成21年度に結成された『英語力向上タスクフォース II』における議論に基づき、過去3年間、専攻科を中心に英語教育および専攻科入試制度改革に取り組んだ。これらの取り組みの結果、専攻科生の入学時における英語力が顕著に上昇し、本科生の英語に対する取り組み姿勢が向上した。そのため JABEE 修了要件における TOEIC スコアの変更が可能となり、今後、専攻科修了時における英語力の向上が期待される。

[7]

In the area of second language learning motivation there has been a recent shift towards socio-dynamic conceptualizations (Dornyei, 2009; Dornyei & Ushioda, 2011). Such approaches place a focus upon the internal-external dynamic interaction between the self-conception of the language learner and the environment, including the 'possible-self' ideas held by the learner (Markus & Nurius, 1986). Following on from a study involving the perceptions of self-relevant motivation from the language learning environment noted by English-major students (Sampson, 2012), technology-major students were asked to write about their 'Best-Possible English Self' and their past English lesson experiences upon entrance to *kosen*. This presentation will describe the activities involved and the themes that emerged from the writing of students, with the presenter discussing what the data suggest for further activities with students newly entered to *kosen*.

[8]

本発表は、認知言語学の理論に基づき、句動詞の具体的指導方法を提示すると共に、語法の重要性を主張することである。句動詞は、英語母語話者によって頻繁に使用される一方、英語学習者には習得が困難で、使用されることが少ないと言われる。句動詞習得を困難にさせる要因は、動詞と不変化詞の総和から、句動詞全体の意味が予想できないというものが大きい。この学習上の障害を、認知言語学の知見を生かし、どう乗り越えそして効果的に句動詞指導ができるかを提案し、今後の語(句)指導の展望を示す。

[9]

1か月以上のインターンシップへの参加が必修となっている東京高専専攻科1年生に対し、英語学習・使用のモチベーションに関するリッカート式アンケートを(平成23年度の初め、国内・海外インターンシップ参加後、23年度終わりの計3回)行った。国内と海外インターンシップ参加者に分けてt検定で分析すると、後者の学生は、インターンシップ以前よりも英語学習・英語使用のモチベーションが上がっていることがこの調査からわかった。また、コミュニケーション能力・自己自信向上に関しても海外インターンシップ参加者に改善が大きく見られた。

7. 懇親会 9月8日(土) 18:00~20:00 D棟9階 レストランさくら

恒例の親睦会を今年も開催いたします。お誘い合わせのうえ、ご参加ください。会費:5,000円

8. 研究発表Ⅱ 9月9日(日)

	10:00 - 10:30	10:35 - 11:05	11:10 - 11:40
401 号室	[10]林浩士(鈴鹿) Q-Uを利用した英語科協同学習 司会:穴井孝義(大分)	[13]石貫文子(熊本・八代C) リスニング教材開発ー開発の 過程を踏まえた考察ー 司会:穴井孝義(大分)	[16]島山喜彦(一関) 英語リスニングにおける学習 者の意識 司会:森和憲(香川・詫間C)
414 号室	[11]伊藤文彦(群馬) FOEFL模試エッセイの語彙分析 司会:中井洋生(鈴鹿)	[14]今村一博(神戸) 英語多読が、単語・句の認識速 度に及ぼす影響 司会:森岡隆(和歌山)	[17]宮崎操(舞鶴) 英語の絵本読み聞かせー心に しみいる授業をめざしてー 司会:森岡隆(和歌山)
415 号室	[12]南優次(宇部) 中国地区弁論大会主管業務と 英語教育の環境整備について 司会:崎山強(都城)	[15]大森誠(松江) コーパスを用いた多読図書 の語彙特性調査 司会:奥崎真理子(函館)	[18]宮本友紀(福井) リスニング力における productive skillの位置づけに ついてのー考察:弱形発音の ディクテーションから 司会:南優次(宇部)

研究発表Ⅱ 要旨

[10]

今日協同学習を実践に取り入れ、学生の学びの質を高めることが大いに期待されるいっぽうで、グループ内での私語が多かったり、他のメンバーに任せきりになってしまっていて個人の学習活動量がきわめて低い学生がでてきたりする懸念から、安易に導入に踏み切れないという声も聞かれる。英語科授業に協同学習を効果的に導入するための方策として、Q-U(居心地の良いクラスにするためのアンケート)を利用した授業実践について考察する。

[11]

コーパスと呼ばれる言語集合を用いた統計的言語研究は、効率的な英語教育に寄与できると期待されている。特に語彙の定量的研究は、目覚ましい発展を遂げている。しかし、コーパスを利用した研究は、リーディング教材を言語資料とした語彙研究が主流で、ライティングに代表される発信型教材の分析は十分とはいえない。そこで本研究は、多くの高校、高専、大学で習得することを目標としているアカデミックエッセイの特徴を計量的に探ってみることとした。

[12]

宇部高専英語科では、第27回中国地区英語弁論大会主管業務を当番校として引き受けた。その際、「平成23年度宇部工業高等専門学校年度計画」(2)教育課程の編成等(5)本年度は本校が中国地区のロボットコンテスト、英語弁論大会、コンピュータフェスティバルの開催校になっているので、全学的なバックアップ体制を構築する。その過程で、学生への認知度を高め、学生が積極的に参加する動機づけを行う。」という目的に基づいて仕事をした。その結果報告と、イベントによる英語学習の動機づけについて、議論する予定である。

[13]

教材は学習者にとっても教師にとっても大変重要な役割を担うが、リスニング教材への需要は、日本の英語教育においてリスニングがより重要視されるようになった過去10年程で学校英語教育においてもさらに高まりを見せている。本発表では、筆者が共著した高校生向けの英語演習教材テキストのリスニングの部分に焦点を当て、その開発の過程を踏まえた考察を行い、その結果から今後より良い教材開発へつながるような提案を行う。

[14]

多くの先行研究によって、流暢に読めない主な原因の一つは読みの下位処理つまり単語・句の認識処理がスムーズにできないことにあることが明らかになっている。また単語・句の認識速度を向上させるのに多読が有効であることが指摘されている (Grabe, 2009 他)。しかし多読によってそれらの認識速度が速くなるかどうか調査した実証的研究はほとんどない。そこで本研究では課外における多読指導を実施し、多読期間前後に単語・句レベルの認識に要する時間(ミリ秒単位)を調査した。

[15]

本発表では、多読図書の語彙に焦点を当て、その特性をコーパス言語学の手法を用いて計量的に分析する。多読図書は一般的に語彙や文法を制限して書かれているが、YLの比較的低い多読図書のうち、無作為に選んだものから作成したコーパスの語彙レベルや異語率は実際どのようなものであるかを明らかにする。また、語彙について中学校教科書との比較を行い、語彙のカバー率を算出する。さらに、松江高専における多読活動の実践を一部紹介する。

[16]

リスニング能力の育成と自律した学習者の育成を目指して、I高専2年生を対象に1年間の実践を行った。指導後における「リスニングの練習方法」および「リスニングの際のこつ (Strategy)」に対する学習者の意識、またそれらと習熟度との関連を調査した。これらの調査結果から、今後の英語指導のための示唆を得たい。

[17]

1. 「英語が使える日本人」以来、実用一辺倒の英語授業・・・文学はどこへ行った
2. 多読の流行 ⇔ 入門としての絵本読み聞かせ
読書はすべての基礎・総合力を養う
絵本読み聞かせはそのまた基礎
3. 実践：高専2年・3年・5年の授業で読み聞かせを実施し、アンケートをとった
4. 市立図書館で「英語で絵本を楽しもう」の会を実施、
以上の報告をする

[18]

リスニング力とは単に音を聞き取る能力以外に語彙力、文法力など総合的な力が含まれているといわれているが、特に弱形発音など音声として聞き取り難い部分については聞こえなかった部分を前後のコンテキストや文法知識などにより補完して再生する力が必要となってくる。本研究では2～3語連続する弱形発音の意味のかたまりのディクテーションテスト結果の分析を通してリスニング力において文を再生・作成する力が果たす役割およびリスニング指導におけるその意義について考える。

9. COCET サロン 9月9日(日) 15:30～17:00 (センター棟401号室)

2日間の大会を終えてなお「もっと語りたい」「もっと聞きたい」という会員の皆様のために、インフォーマルな雰囲気でのディスカッション、情報交換の場を設けました。個人で、グループで、自由に語り合いましょ。

オリンピック記念青少年総合センター配置図
 使用予定：センター棟



センター棟 4階 配置図
 使用予定：401、404、414、415号室

